

## 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立荒川工科高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(教務主任兼務)=事務局長
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画課（室）長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、総務主任 計7名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）  
地域代表2名、警察署1名、保護者代表2名 計5名

### 2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、開催場所、出席者、内容、その他  
第1回 令和7年6月10日（火）大会議室、出席者：内部委員6名、協議委員5名  
協議委員委嘱、学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校経営計画、各部の現状と課題、協議  
第2回 令和7年11月18日（火）大会議室、出席者：内部委員7名、協議委員2名  
各部の上期進捗状況と今後の取組みと課題、学校評価アンケートの内容検討、協議委員からの  
教育活動に対する質問・意見、協議  
第3回 令和8年2月10日（火）大会議室、出席者：内部委員7名、協議委員2名  
各部の下半期進捗状況と今後の取組みと課題、学校評価アンケートの集計・分析・考察結果、  
協議
- (2) 評価委員会（第1～3回）の開催日時、開催場所、出席者、内容、その他  
第1回 令和7年6月10日（火）大会議室、出席者：内部委員6名、協議委員5名  
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価の実施に向けた検討等  
第2回 令和7年11月18日（火）大会議室、出席者：内部委員7名、協議委員2名  
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討  
第3回 令和8年2月10日（火）大会議室、出席者：内部委員7名、協議委員2名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - 1月 全校生徒 対象：27人 回収：24人 回収率：88.9%
  - 1月 保護者全員 対象：27人 回収：15人 回収率：55.6%
  - 12月 地域住民 対象：80人 回収：47人 回収率：58.8%
  - 1月 教職員 対象：15人 回収：13人 回収率：86.7%
- (3) 主な評価項目  
「学校生活」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「その他」の5領域18項目
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）  
質問内容は昨年度同様とし、昨年度比が分かりやすく出するようにした。地位住民向けのアンケートは荒川区連携小学生工作教室に参加した方に協力を願ひ、サンプル数向上を目指している。
  - 生徒評価は、全体的に昨年度の肯定的評価を上回った。一方で、進路指導においては、微小ではあるが、肯定的評価が昨年度を下回っている。
  - 保護者評価については、平均すると肯定的評価は昨年度とほぼ同等である。
  - 教員評価については、肯定的評価が昨年度に比べ増加している。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）  
進路活動は外部機関との連携や企業見学を実施しているものの満足・肯定評価が減少しており、生徒の進路段階とのズレや効果が見えにくい点など、原因を見極めて次年度の改善につなげる必要がある。また、全体傾向は「肯定的評価が増加した項目」と「減少した項目」がある。生徒アンケートでは評価が増加している項目でも、保護者では減少している傾向がある。原因として、「生徒が家庭で学校のことを話さない」「保護者に学校の教育活動を見たり知ったりする機会が少ない」年度によって評

価の動きは異なるが、共通の課題として、保護者が学校の実情を知る機会が少ないために評価が上がりにくい構造が見られる。昨年度同様、今後の課題とし各項目における活動の家庭共有の強化、保護者が学校を知る・見る機会を増やす、校内活動を保護者・地域へ積極的に発信するための方法を工夫していくことが重要である。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

##### （1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- 各分掌における上半期及び下半期の取組状況、今後の課題について報告し、次年度に向けた各種調整を行っている。
- 学校行事について、滞りなく計画通り実施したことを報告した。
- 部活動の活躍について報告した。  
（柔道部 東京都高等学校定時制通信制総合体育大学男子有段 3位）  
（柔道部 全国高等学校定時制通信制体育大会柔道大会 男子個人 5位 男子団体 5位）
- 第46回荒川区青少年表彰において、本校4年生2名が表彰されたことを報告した。
- 地域連携として、荒川区の小学生を対象にした講座「電子ちょうちん製作」、「キャンドルクラフト」の2講座を実施したことを報告した。

##### （2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- 本校の教育活動についてホームページ等を活用し情報発信しているが、地域住民への知名度が浸透していないことが挙げられる。
- 資格取得活動等、生徒の自己実現に向け、生徒ひとりひとりに寄り添いながら組織的に取り組んでいる。この活動においても広報活動を通して広げていくことが必要である。

#### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

##### （1）学校運営

- 工業高校の専門性にこだわることなく、新たな資格取得を目指し、組織的に取り組む。
- 授業力向上に向け、相互授業参観、学校外で実施される研修等への積極的な参加を促す。教科横断型授業の導入を実施している。
- ホームページ、公開講座等を活用し広報活動をさらに充実させる。
- 冬季に実施した小学生向け電子工作教室を継続して開催していく。

##### （2）学習指導

- 始業前学習、長期休業日中の補習・講習等を充実させ、基礎学力の定着及び資格取得等の推進を図る。
- すべての教科で「ねらい・目当て」を示し、「～ができた」に繋がられる指導を行う。
- 例年実施しているオンライン学習デーについて工夫したシステムを構築する。

##### （3）特別活動

- 部活動の加入率、定着率上昇に向け友人や教員との信頼関係を深化させる。
- 生徒会を中心とした委員会活動及びボランティア活動を活性化させる。

##### （4）生活指導

- すべての教員の合意形成のもと、授業規律を周知徹底させる。
- 基本的な生活習慣を確立させるため、始業前学習等を活用した遅刻指導の徹底を図る。

##### （5）進路指導

- 1学年から就労・就業を意識させ、ハローワークと連携してキャリア教育の充実を図る。
- 就労未経験者を中心にインターンシップを実施し、円滑な進路選択ができるよう支援する。

##### （6）健康・安全

- スクールカウンセラー、養護教諭、学年、保護者等との連携を図り、相談教育体制を充実させる。
- 外部講師と連携し、食育指導等を通して健康教育の推進を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 5人(回答2名)

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

| そう思う | 多少そう<br>思う | どちらとも<br>言えない | あまりそう<br>思わない | そう思わ<br>ない | 分からない | 無回答 |
|------|------------|---------------|---------------|------------|-------|-----|
| 1    | 1          |               |               |            |       |     |

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】なし

【成果】なし

標記会議のへの協議委員の参加については、今年度は機会を設けていない。

8 その他

- 保護者のアンケート回収率を更に高めるため、回収方法を工夫する。
- 評価精度をより一層高めるために、情報発信の方法の工夫や、授業公開等の機会を増やす等、学校広報活動をより一層充実させる。